

経済・金融 フラッシュ

【3月米ISM製造業指数】 改善幅は小さいが、寒波の影響解 消は鮮明に

経済研究部 研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1824 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

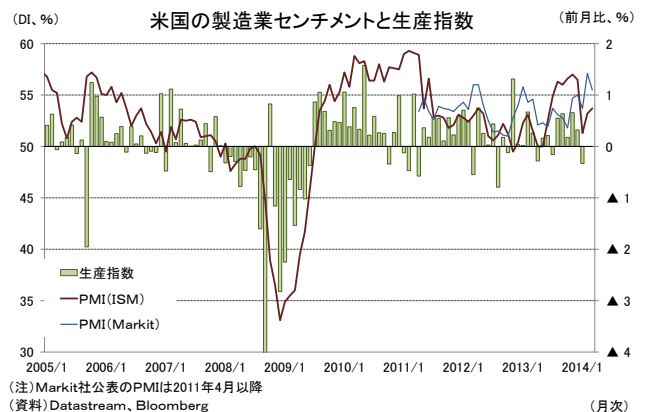
1. 結果の概要:改善は小幅だが、寒波の影響解消は鮮明に

4月1日、米サプライマネジメント協会（ISM）は3月の製造業指数（PMI）を公表した。結果は53.7¹となり前月の53.2から小幅に改善した。ただし、市場の事前予想（Bloombergの予想中央値は54.0）は若干下回った（図表1）。

また、同日にMarkit社も3月の米PMI改定値を公表、結果は55.5であった。速報値（55.5）から変わらず、前月の57.1からやや低下したことが確認された。

今回発表された3月のPMIは、寒波の影響が残った2月と比べて小幅な改善にとどまったが、入荷遅延指数が悪化したことが主因であり（つまり、入荷が早くなっている）、また生産指数も大幅に改善している（後掲図表2-4も参照）。そのため、むしろ寒波の影響の解消が確認された内容だったと評価できる。Markit社のPMIでは2月と比べて低下したが、2月の水準自体が高いため、3月のPMIは決して弱くない。総じて見れば、寒波の影響が解消に向かったことが確かめられたという点でポジティブな内容だったと言える。

(図表1)



2. 結果の詳細:先行きの強さを示す内容にも乏しい

ISMの公表したPMIは、2013年6月以降、10カ月連続で景気の拡大・縮小の境目となる50を上回っている²。ISMのPMIを業種ごとに見ると、拡大を続けた業種は18業種中14業種となり³、前月（同14業種の改善）と同じであった。また、PMIの構成指数を含めた10指数中では5指数が改善し、こちらも前月（同5指数の改善）と同じであった（図表2）。

拡大業種数や拡大指標数は2月と比較して大差ないが、ISMのレポートに記載されている回答

¹ 季節調整済の数値。以下、特に断りがない限り、季節調整済の数値を記載している。

² 2013年4月、5月は50.0であり、50も含めて数えると56カ月連続で50以上を記録したことになる。

³ 拡大した業種は以下の通り

石油・石炭、輸送機器、家具、紙製品、出版・印刷、プラスチック・ゴム、加工金属、一般機械、繊維、コンピュータ・電子機器、非金属鉱物、飲飲料・タバコ、化学製品、一次金属

一方、縮小した業種は以下の通り

衣類・皮革、木材製品、電気機器、その他製造業

者のコメントでは、足もとの事業環境が改善し、先行きも明るいとの内容が中心で、悪天候が懸念されていた2月より改善に向かっているとの印象が強い結果であった。

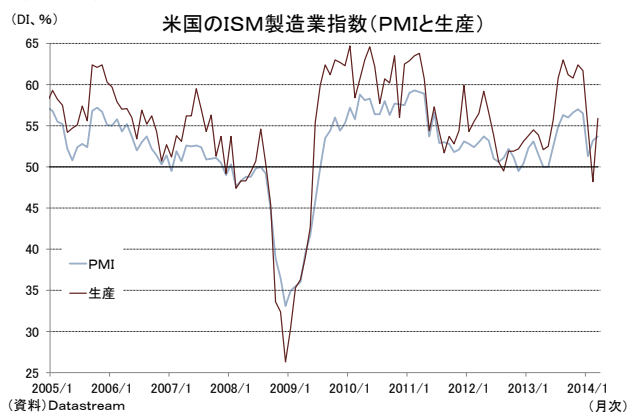
(図表 2)

ISM製造業指数 (PMI)																				(DI, %)	前月差	
	2012/7	2012/8	2012/9	2012/10	2012/11	2012/12	2013/1	2013/2	2013/3	2013/4	2013/5	2013/6	2013/7	2013/8	2013/9	2013/10	2013/11	2013/12	2014/1	2014/2		2014/3
PMI	50.6	51.1	52.2	51.2	49.5	50.4	52.3	53.1	51.5	50.0	50.0	52.5	54.9	56.3	56.0	56.6	57.0	56.5	51.3	53.2	53.7	+ 0.5
新規受注	50.3	49.6	53.5	51.8	51.4	50.1	50.8	55.7	51.7	49.7	49.6	55.7	59.1	63.6	61.3	61.3	63.4	64.4	51.2	54.5	55.1	+ 0.6
生産	50.6	49.5	51.9	51.9	52.2	53.1	53.8	54.5	53.9	52.1	52.5	55.7	60.8	63.0	61.2	60.8	62.4	61.7	54.8	48.2	55.9	+ 7.7
雇用	53.3	52.9	54.3	53.1	48.8	52.7	53.8	52.2	52.1	50.5	49.0	50.0	55.5	55.0	54.8	54.3	55.4	55.8	52.3	52.3	51.1	▲ 1.2
入荷遅延	49.6	50.3	50.6	49.4	50.2	52.9	51.9	51.5	50.4	51.1	49.7	50.4	52.0	52.4	52.7	54.1	53.3	53.7	54.3	58.5	54.0	▲ 4.5
在庫*	49.0	53.0	50.5	50.0	45.0	43.0	51.0	51.5	49.5	46.5	49.0	50.5	47.0	47.5	50.0	52.5	50.5	47.0	44.0	52.5	52.5	-
顧客在庫*	49.5	49.0	49.5	49.0	42.5	47.0	48.5	46.5	47.5	44.5	46.0	45.0	47.5	42.5	43.0	47.0	45.0	47.5	44.0	46.5	42.0	▲ 4.5
仕入価格*	39.5	54.0	58.0	55.0	52.5	55.5	56.5	61.5	54.5	50.0	49.5	52.5	49.0	54.0	56.5	55.5	52.5	53.5	60.5	60.0	59.0	▲ 1.0
受注残*	43.0	42.5	44.0	41.5	41.0	48.5	47.5	55.0	51.0	53.0	48.0	46.5	45.0	46.5	49.5	51.5	54.0	51.5	48.0	52.0	57.5	+ 5.5
新規輸出受注*	46.5	47.0	48.5	48.0	47.0	51.5	50.5	53.5	56.0	54.0	51.0	54.5	53.5	55.5	52.0	57.0	59.5	55.0	54.5	53.5	55.5	+ 2.0
輸入*	50.5	49.0	49.5	47.5	48.0	51.5	50.0	54.0	54.0	55.0	54.5	56.0	57.5	58.0	55.0	55.5	55.0	55.0	53.5	53.5	54.5	+ 1.0

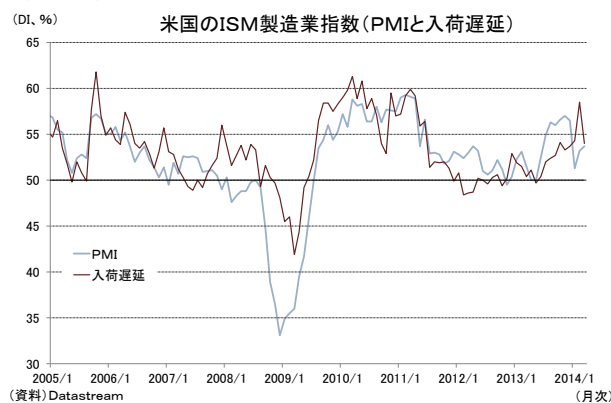
(注) 各項目ごとに網掛けが濃いほど、良好な結果であることを表す(濃淡は過去3年分のデータから計算)。*は原系列
(資料) Datastreamよりニッセイ基礎研究所作成

指数の内訳を見ると、生産指数が 55.9 (前月: 48.2、前月差: +7.7 ポイント) と大幅改善となった (図表 2・3)。一方、総合指数を押し下げたのは、入荷遅延指数であり 54.0 (前月: 58.5、前月差: ▲4.5 ポイント) であった (図表 2・4)。しかし入荷遅延に関しては、通常、景気拡張期に遅延が発生するため、その解消は PMI を押し下げることになるが、今回は寒波による遅延解消を示唆しており、ポジティブな結果と受け取ることができる。

(図表 3)



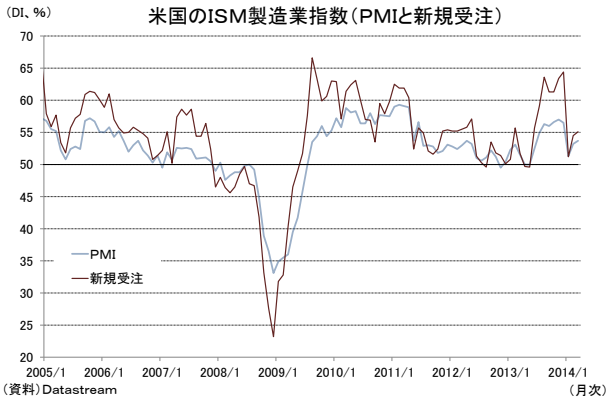
(図表 4)



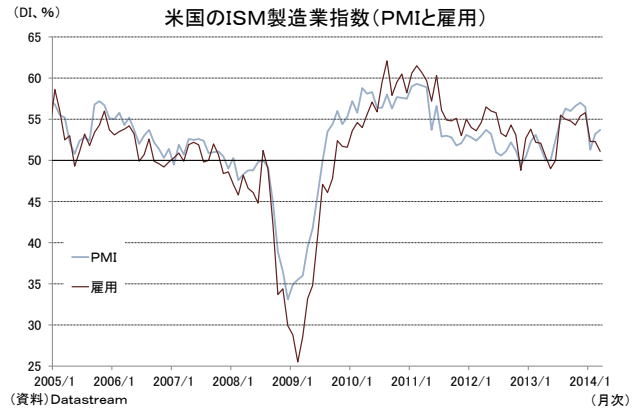
その他の指標では、先行きの動向を示唆する新規受注が 55.1 (前月: 54.5、前月差: +0.6 ポイント) と小幅な改善にとどまった (図表 2・5)。また、雇用指数は 51.1 (前月: 52.3、前月差: ▲1.2 ポイント) と悪化している (図表 2・6)。

両指数は 2013 年後半と比較しても水準が低く、今回の指標からは、寒波の影響解消が判明し、景気の改善期待を高める内容ではあったものの、先行きの強さを示す内容にも乏しかったと言える。とりわけ雇用に関しては、寒波の落ち込みからの反動増が試される 3 月の雇用統計が 4 月 4 日に公表される予定であり、この結果が注目だろう。

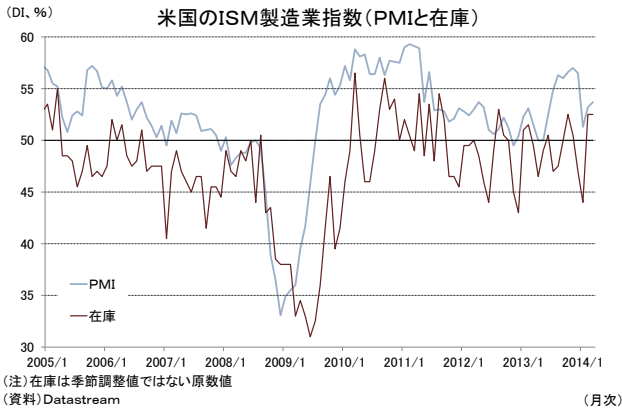
(図表 5)



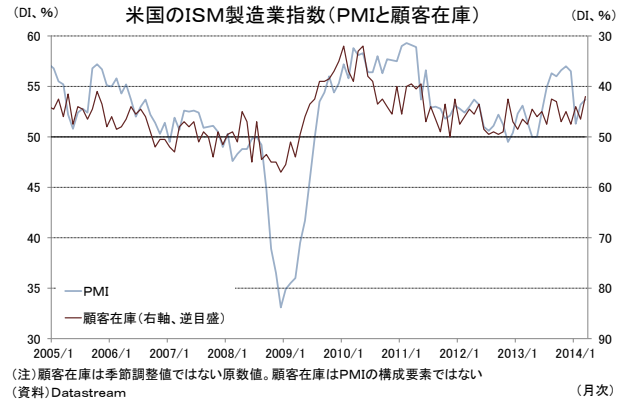
(図表 6)



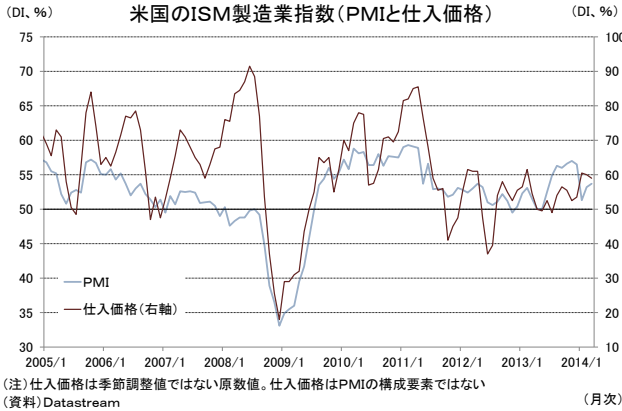
(図表 7)



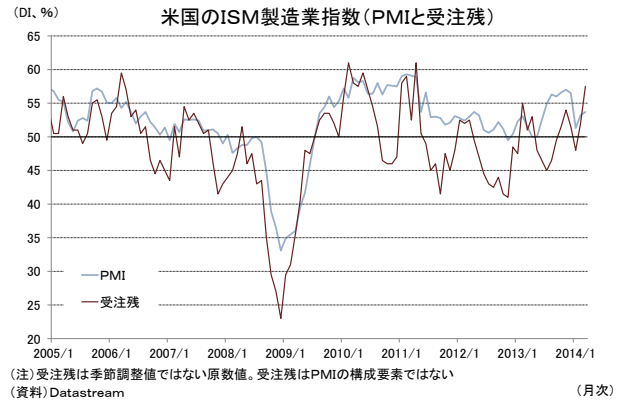
(図表 8)



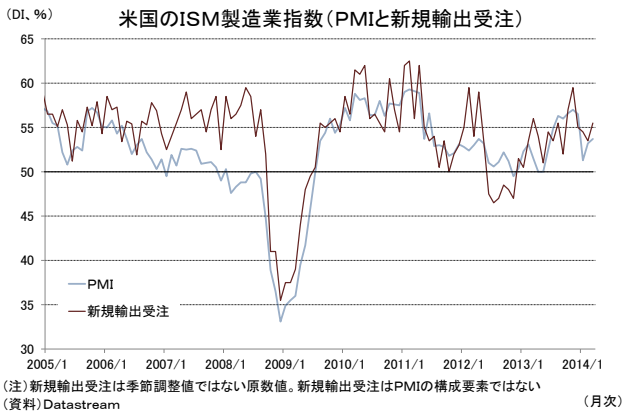
(図表 9)



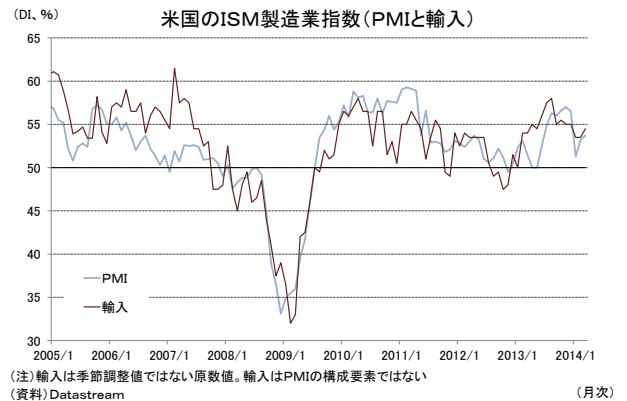
(図表 10)



(図表 11)



(図表 12)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。